

通学できることになりました。兄の友人の家に住み込んで、その家の手伝いをしながら学校に通うわけです。

旧会津藩士たちは、斗南領となんに移住してから、その日の食事にも困り、乞食こじきのような生活をしながらも、子供の教育には、何をさしおいても当る情熱を失いませんでした。田名部村にある円通寺えんつうじに藩校としての日新館を開き、なお各地にその分校をつくり、藩士の子供は誰でもが学べるようにしたのです。

五郎は、以前は田名部村の日新館に通っていたのですが、落おとしの沢に来てからは通学をあきらめていました。今度、五三郎兄が来てくれたので、父も兄嫁あによめも五郎の復学ふくがくをすすめていたのでした。

「ありがとうございます。五郎は一生けん命勉強して、かならずご恩むくに報います。」

五郎は、家族の人にも、自分にも誓ちかう気持ちでそう言いました。